



“幼稚園の思い出と

最近の嬉しかったこと”

園長 高杉 洋史



Photo by
Hiroshi Takasugi

私は奥手だったので、幼稚園時代のことはもちろん小学校一年生のことほとんど覚えていません。ところが今年のチューリップ畑を眺めていた時、突然60年前の幼稚園の花壇がよみがえりました。夢のようなヒヤシンスの花壇です。ヒヤシンスとともにキュウリグサの小さな青い花やオドリコソウの淡い桃色の花を思い出しました。あの頃は名前を知らなかった花でも思い出すものです。残念なのは担任の先生の姿もお名前も思い出せないことです。同級生だった隣家の幼馴染は覚えていません。ある日幼稚園から帰ったら母が近く知人宅に外出していて、その子の父親が自転車で母の外出先まで連れて行ってくれたことなども思い出しました。友達のお父さんの顔は思い出せないのに、母が家にいなかった驚きと寂しさだけが記憶に残っています。

3月下旬のある日、小学校6年生の卒業式を終えたばかりの卒園生が幼稚園を訪ねてくれました。同級生からポストカプセルの話を聞いて受け取りに来てくれたのです。その子のポストカプセルは小学校時代に引越しがあつた幼稚園で預かっていました。大きく成長した姿を頼もしく思うとともに、幼稚園時代から小学校卒業まで、卒園生の皆さんがずっと友達付き合いを続けていっていること知り、うれしく思いました。そうこうしていると、卒園生同士で野球のバッテリーを組んでいる中学生二人組が来てくれました。背の高さは170cmを超えています。大人に近づいた体の中に幼稚園時代の雰囲気が残っていて、中学生のはにかみと幼稚園時代からはずかしがりが混ざつた好青年かつスポーツマンに育っていました。彼らに幼稚園時代のことを聞くと、担任の先生のことまでしっかりと覚えていいるのです。元担任はうれいすね。

幼児教育の効果はなかなかはっきりとあらわすことができませんが、卒園生の心の中に、幼かったころ多くの人たちにかわいがられたこと、友達と走りまわり、喧嘩もしたことなど、温かな思い出がたくさんできることが大切なことと思います。一つ一つの経験が人生のハードルを越える力を強いものにしてくれることと信じています。